

2022年
4-6月期

県内景況・確報

◎概況 県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くものの、緩やかに持ち直している。

●2022年4-6月期 おきぎん「カトレア」景況図●

県内景況



やや悪い

個人消費



やや悪い

建設関連



ふつう

観光関連



やや悪い

企業倒産



やや良い

雇用状況



やや悪い

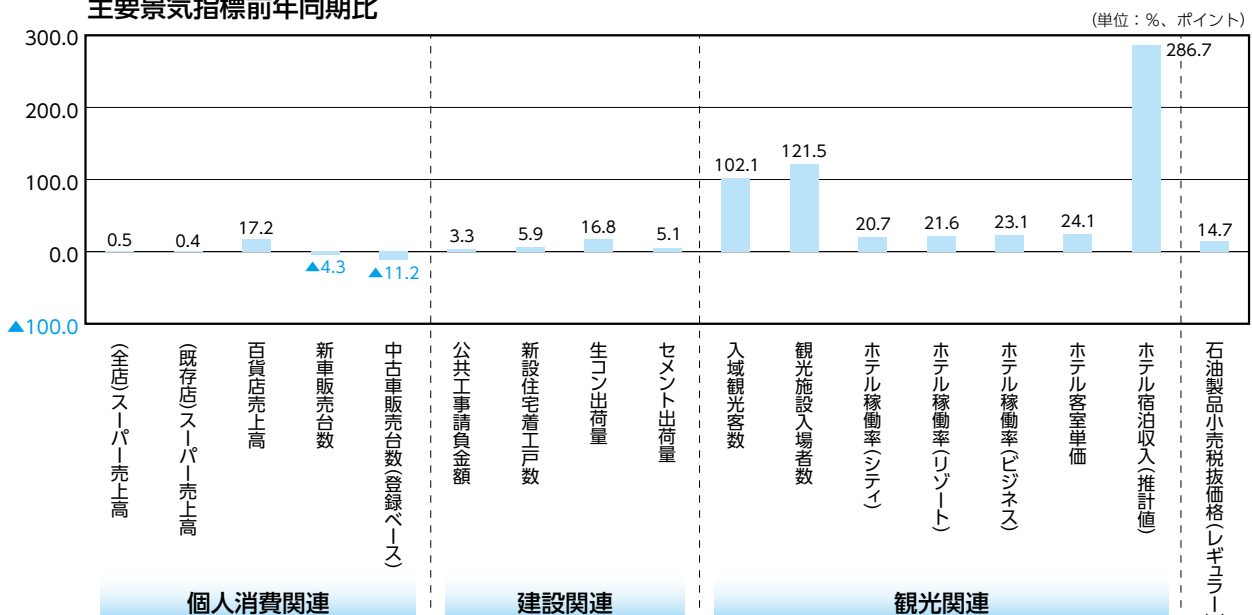
2022年4-6月期の県内景況は、**個人消費関連**では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同期を上回りました。百貨店売上高は前年同期を上回りました。耐久消費財である新車販売台数、中古車販売台数は共に前年同期を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、独立行政法人等などの発注工事の増加等により前年同期を上回りました。新設住宅着工戸数は前年同期を上回り、建設資材である生コン、セメントはともに前年同期を上回りました。

観光関連では、入域観光客数は前年の国の緊急事態宣言の実施に伴う反動増等から前年同期を上回りました。観光施設入場者数も同様に前年の施設の休業（休館）体制の反動増等から前年同期を上回りました。ホテル稼働率についてはシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同期を上回りました。ホテル客室単価・宿泊収入（推計値）もともに前年同期を上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費は、感染症による下押し圧力が弱まるもとで緩やかに持ち直しており、建設関連は民間工事に弱い動きが続いています。観光関連は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続く中、緩やかに持ち直しています。よって、**「県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くものの、緩やかに持ち直している」**と判断いたしました。

主要景気指標前年同期比





個人消費



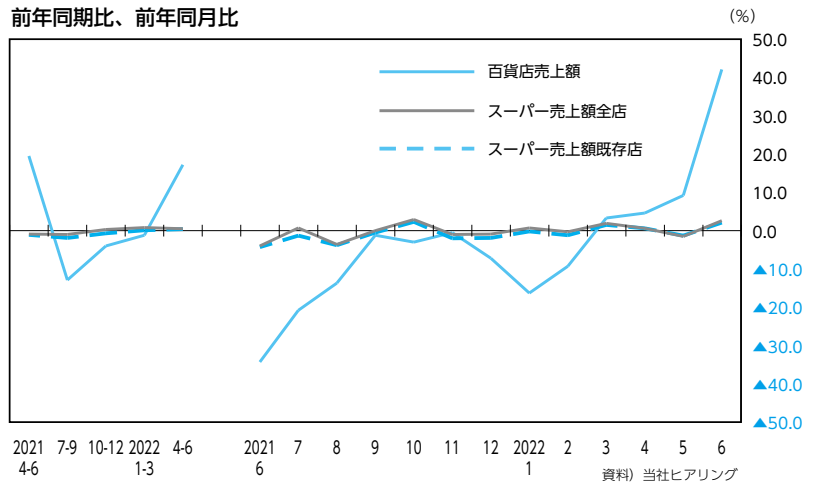
(やや悪い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同期を上回る。百貨店売上高は前年同期を上回る。

2022年4-6月期の個人消費関連は、スーパー売上高は「**全店ベース(前年同期比0.5%増)**」で前年同期を上回りました。品目別では、「食料品(同0.6%減)」は前年までの巣ごもり需要の反動や人流回復に伴う外食需要の拡大などにより前年同期を下回りました。「衣料品(同9.4%増)」、「家庭用品(同4.8%増)」は前年の緊急事態宣言の反動などにより来客数が増加し前年同期を上回りました。

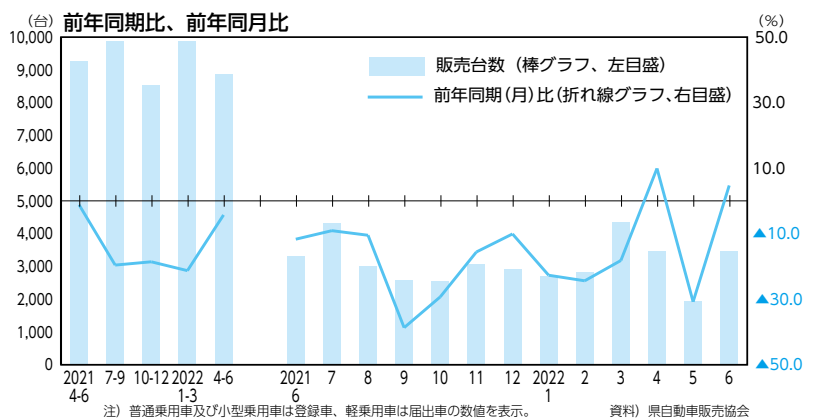
「**既存店ベース(0.4%増)**」は、前年同期を上回りました。(以下、既存店ベース)品目別では、ウェイトの高い「食料品(同0.7%減)」は、巣ごもり需要が落ち着いてきたことや、人流回復により外食需要が増加したことなどから、一般的に伸びず、前年同期を下回りました。「衣料品(同10.9%増)」、「家庭用品(同2.4%増)」は、前年の緊急事態宣言発出に伴う一部店舗の土日祝日休業の反動などにより来店客数が増加し、前年同期を上回りました。

百貨店売上高は、人流回復に伴う来店客数の増加などにより前年同期を上回りました。(同17.2%増)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同15.5%増)」、「食料品(同25.3%増)」は、前年に比べ来店客数が増加したことや、催事企画が好調だったことなどから、前年同期を上回りました。「身廻品(同27.2%増)」、「家庭用品(同2.0%増)」、「雑貨(同7.5%増)」においても、来店客数の増加などにより前年同期を上回りました。



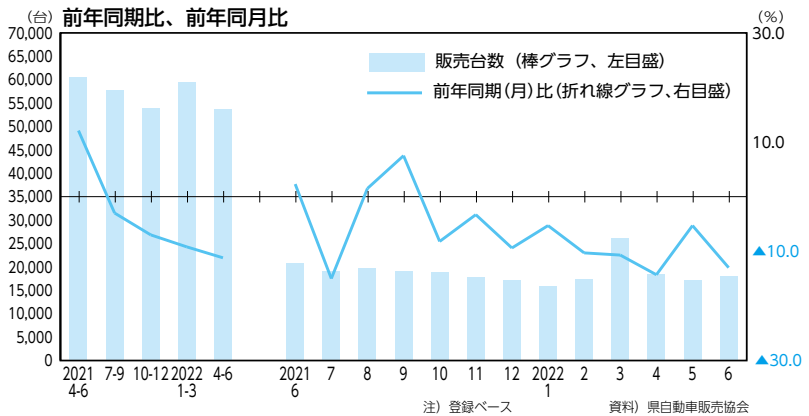
② 新車販売台数…新車販売台数は、前年同期を下回る。

新車販売台数は、全体で8,875台(同4.3%減)となり、前年同期を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同7.6%減)」、「軽乗用車(同25.6%減)」は、半導体不足による供給制限などにより前年同期を下回りました。「小型乗用車(同74.8%増)」は、レンタカー需要の増加などにより、前年同期を上回りました。
※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



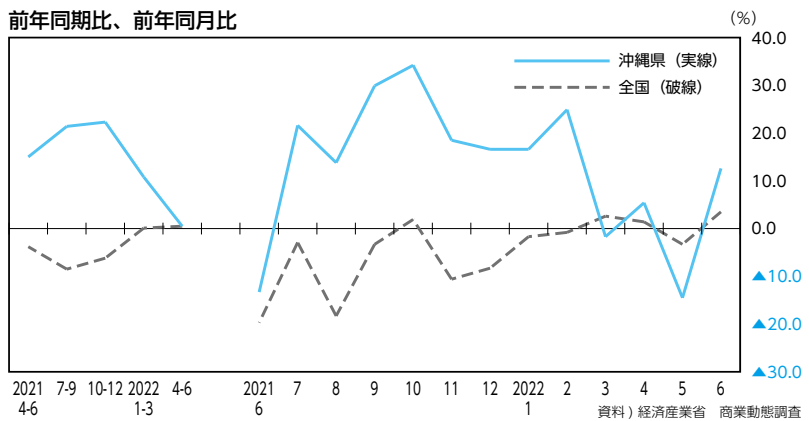
③ 中古車販売台数…中古車販売台数は、前年同期を下回る。

中古車販売台数は、全体で53,745台（同11.2%減）となり、前年同期を下回りました。車種別では、「普通乗用車（同15.7%減）」、「軽乗用車（同8.2%減）」共に、新車の供給台数が減少していることが要因となり、中古車市場における車両台数が減少していることなどから、前年同期を下回りました。



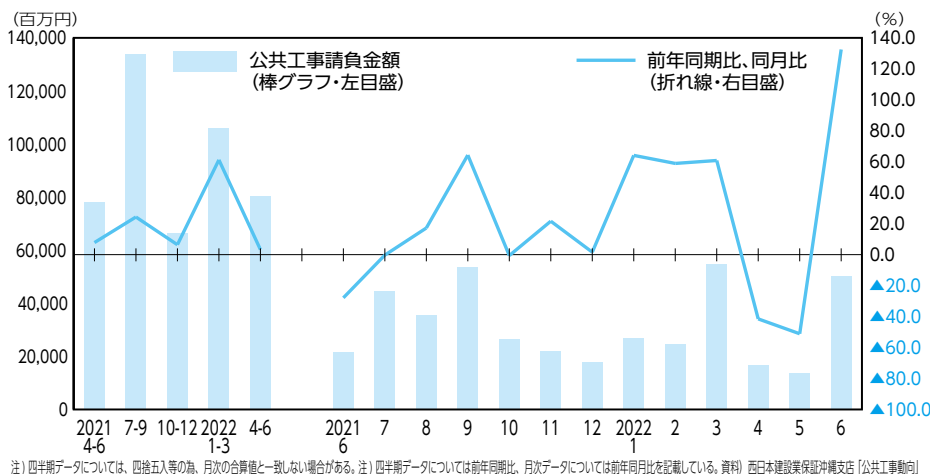
④ 【参考】大型家電専門店販売額…販売額は前年同期を上回る。

大型家電専門店販売額は前年同月を上回りました。上回った要因として、前年の緊急事態宣言の反動による来客数の増加や、店舗数の増加などが挙げられています。



建設関連 (ふつう)

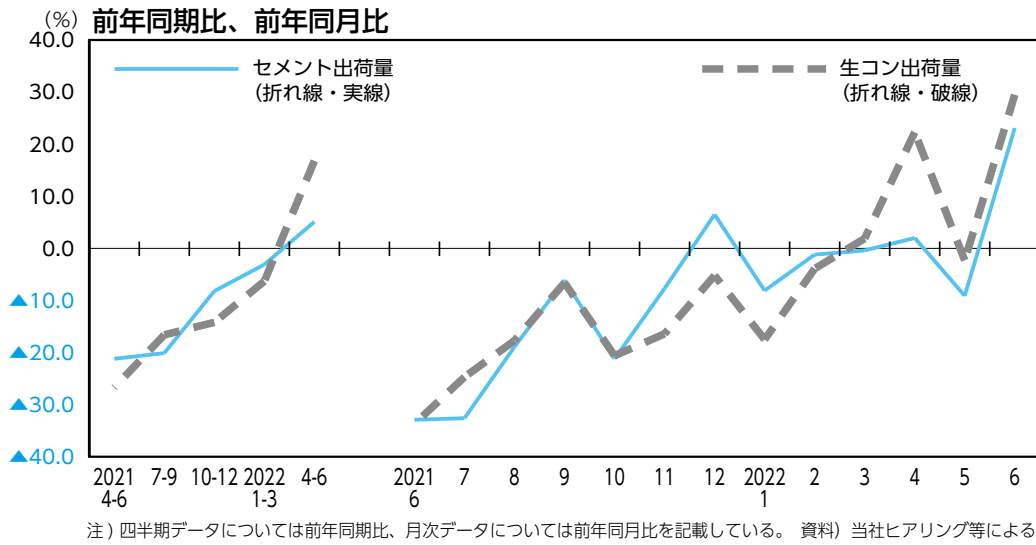
① 公共工事…公共工事請負金額は前年同期を上回る。



2022年4-6月期の公共工事請負金額は、前年同期比3.3%増の805億5,700万円となりました。発注者別でみると、「独立行政法人等(同409.3%増)」や「その他の公共的団体(同68.9%増)」、「国(同0.5%増)」は前年同期を上回りました。一方で「市町村(同52.9%減)」や「沖縄県(同6.6%減)」は下回りました。

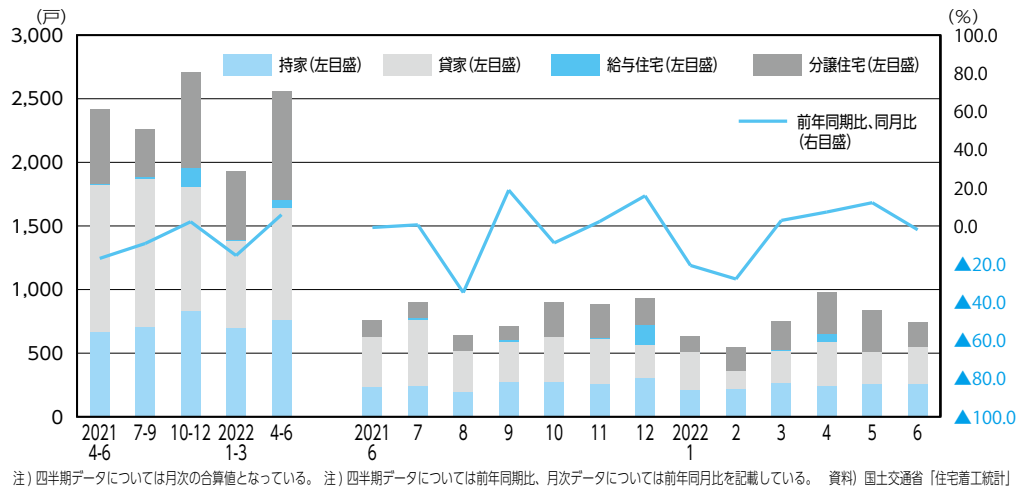


② 建設資材…生コン、セメントはともに前年同期を上回る。



2022年4-6月期の建設資材関連では、生コンの出荷量は16.8%増と前年同期を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷は27.7%増、民間工事向け出荷は11.7%増と前年同期を上回りました。セメント出荷量は5.1%増と前年同期を上回りました。

③ 新設住宅着工戸数…着工戸数は前年同期を上回る。



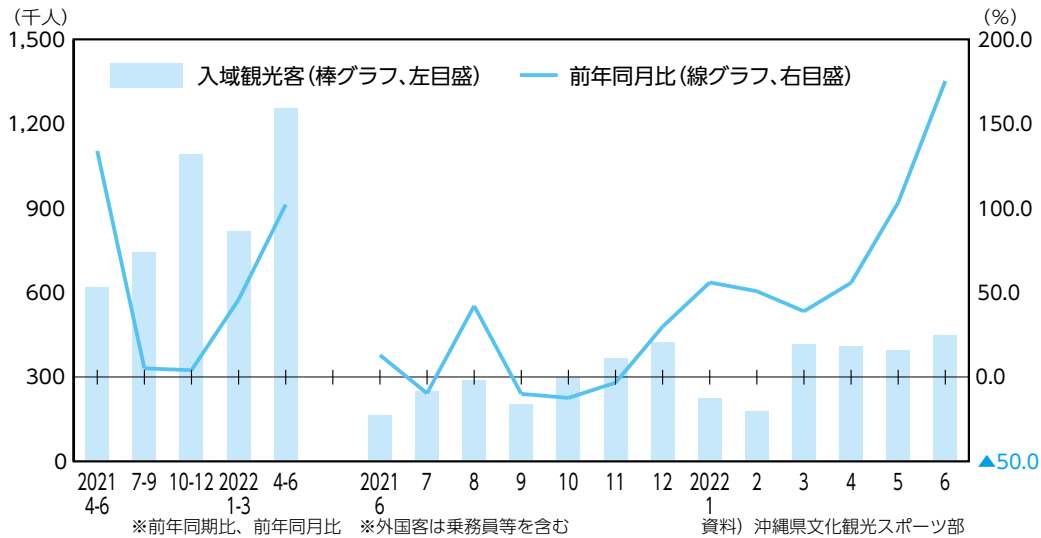
2022年4-6月期の新設住宅着工戸数は、全体で前年同期比5.9%増の2,561戸となりました。利用別戸数をみると、「分譲住宅 (同45.3%増)」や「持家 (同13.7%増)」、「給与住宅 (同550.0%増)」は前年同期を上回りました。一方で、「貸家 (同23.4%減)」は下回りました。

観光関連

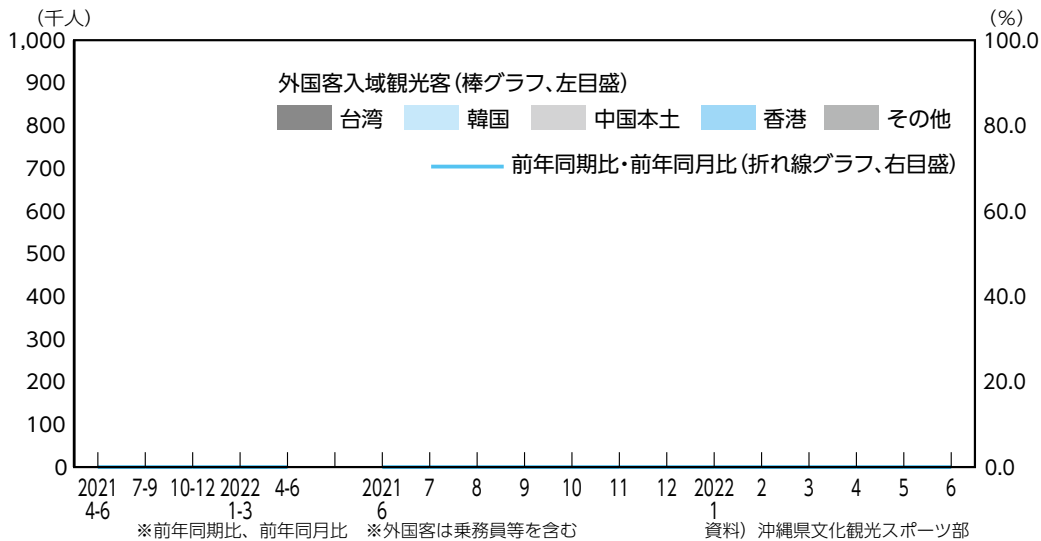


(やや悪い)

① 入域観光客数(国内客・外国客の合計)…前年同期を上回る。



外国客 入域観光客数…前年同期同様、皆減。



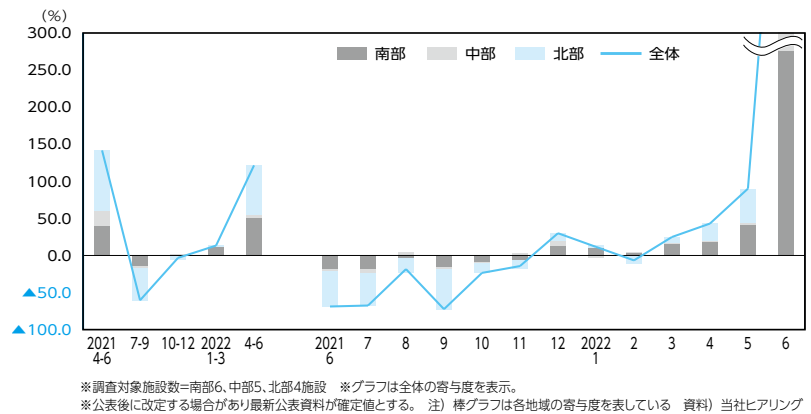
2022年4-6月期の入域観光客数は、行動制限の緩和や減便規模が縮小傾向にあることなどから、5四半期連続で前年同期を上回りました。

他方、外国客は日本への入国制限措置の継続等により前年同期と同様、皆減となりました。



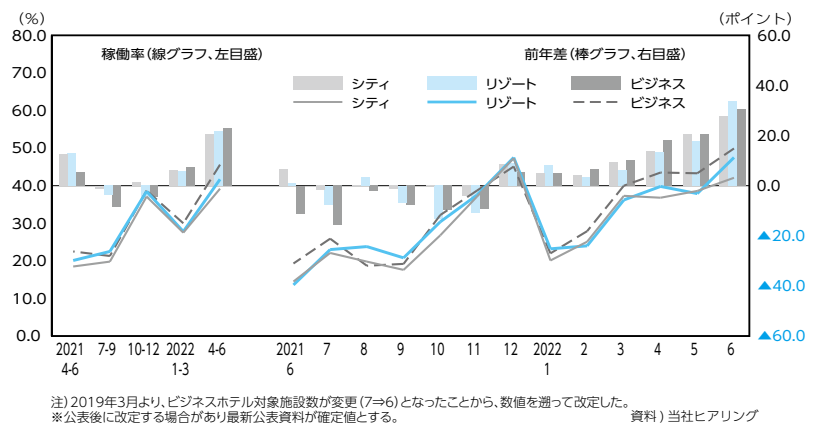
② 観光施設入場者数…各地域において前年同期を上回る。

観光施設入場者数は、全体で前年同期より121.5%増加しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同177.4%増、中部は同38.5%増、北部は同110.8%増とすべての地域において前年同期を上回りました。



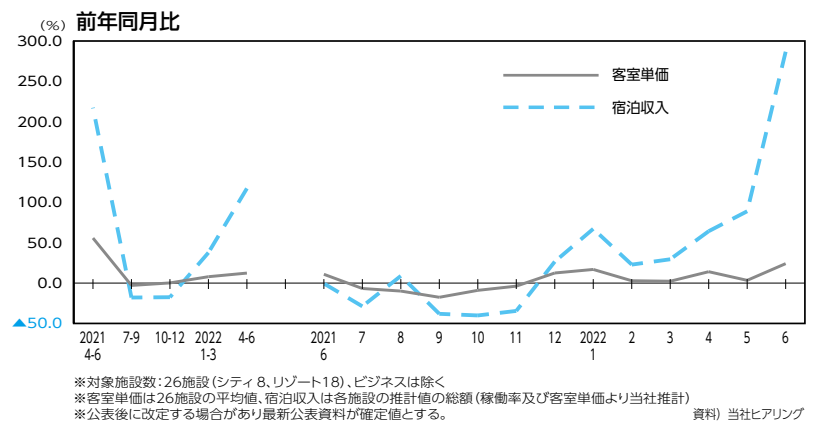
③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同期を上回る。

2022年4-6月期の県内ホテル稼働率は、シティホテルが39.2%と前年同期差20.7ポイント上昇、リゾートホテルが41.7%と同21.6ポイント上昇、ビジネスホテルが45.6%と同23.1ポイント上昇しました。



④ ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価、宿泊収入前年同期を上回る。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同期比12.4%増、宿泊収入も同117.3%増と前年同期を上回りました。





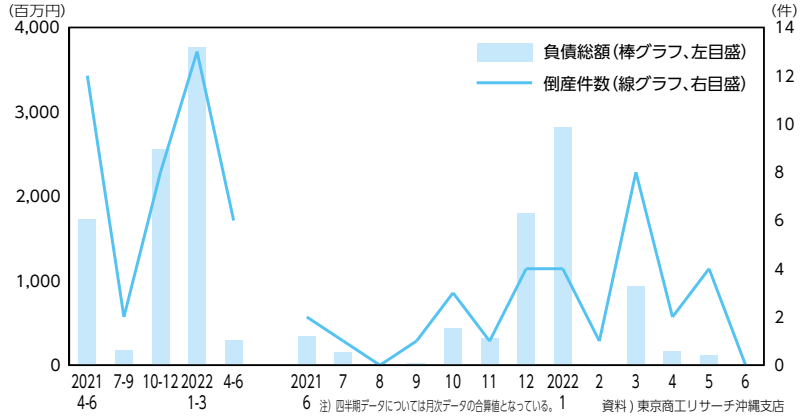
企業倒産



(やや良い)

企業倒産…件数、負債総額はともに前年同期を下回る。

2022年4-6月期の企業倒産件数は、6件（うち大型倒産（負債総額10億円以上）はなし、大口倒産（負債総額1億円以上10億円未満）は1件）となり、前年同期より50.0%下回りました。**負債総額**は2億9,000万円となり、前年同期を83.3%下回りました。



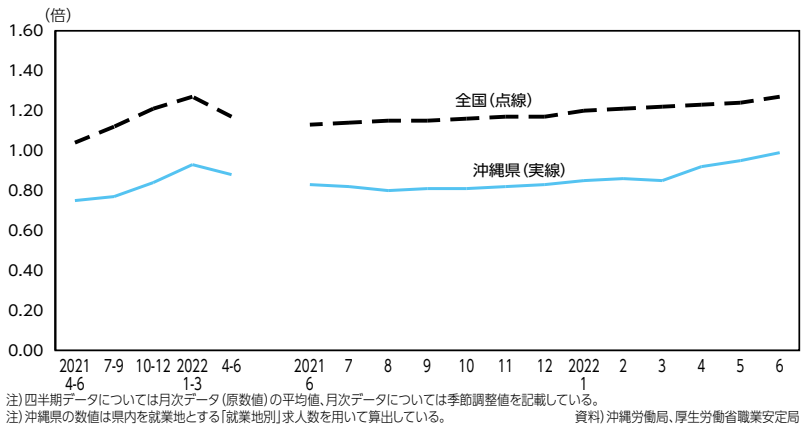
雇用関連



(やや悪い)

① 有効求人倍率…沖縄、全国はともに前年同期を上回る。

2022年4-6月期の雇用状況は、有効求人数（四半期平均）は前年同期比27.4%増の29,457人に対して、有効求職者数（同上）は前年同期比8.2%増の33,330人となり、有効求人倍率（同上）は0.88倍となり前年同期より0.13ポイント上昇しました。



② 完全失業率…沖縄県、全国はともに前年同期を下回る。

2022年4-6月期の完全失業率（原数値平均）は、2.8%となり前年同期より1.0ポイント低下しました。

